



レアル相場安定化に向けブラジル中銀が追加介入実施へ

- 米FOMC後のレアル安進行を受けて、ブラジル中銀は1月31日に23億米ドル規模の追加介入を実施へ。
- ブラジルは大規模な外貨準備高を抱え、介入余力を大きく残す。追加介入を契機にしたレアル相場の安定化に期待。
- 一部新興国は通貨安抑制のため大幅利上げを実施。ブラジルは2013年からの先行的な利上げで物価安定に成果。

レアル安を受けてBCBが追加為替介入策を公表

1月29日の米連邦公開市場委員会(FOMC)での量的緩和縮小を受けて、ブラジル・レアルの対米ドル相場は2013年8月21日以来の安値である1米ドル＝2.437レアルへ下落しました(対円では42円前後まで下落、図1)。

2013年8月の当時も、レアル相場の急落を受けて、ブラジル中銀(BCB)は8月22日に新為替介入プログラムを公表し、レアル相場下落に歯止めをかけました。今回も、レアル安進行を受けて、**ブラジル中銀は1月31日に23億米ドル(約2,300億円)規模の追加の米ドル売り介入を実施する計画を公表**しました(レポ取引によるスポット介入)。

元々、ブラジル中銀は月～金曜日の定例介入(1日当たり2億米ドルのスワップ介入)に加えて、流動性の状況に応じて追加的な米ドル売り介入(スポット介入)を行う方針を示してきました。今回、**ブラジル中銀が追加介入策を表明したことは、2013年8月21日の最安値である1米ドル＝2.45レアルの水準を守る意思を示したものと考えられます。**

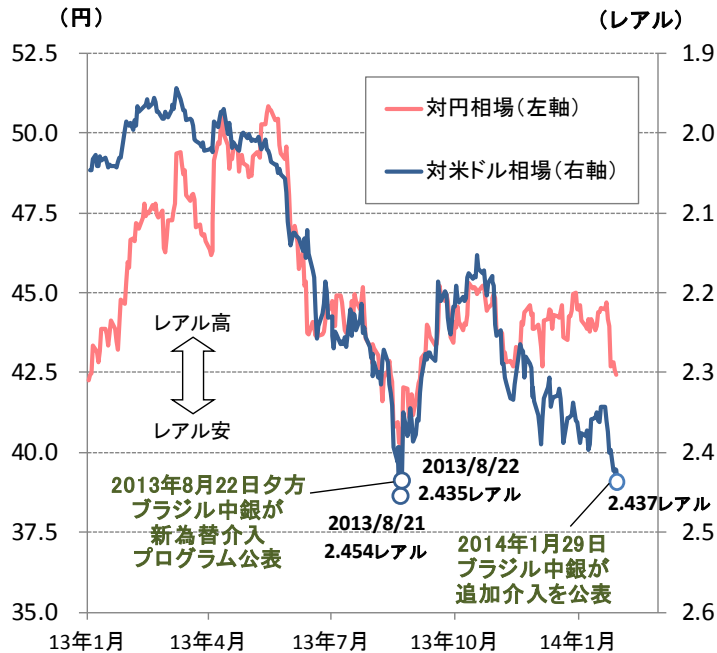
追加介入を契機にレアル相場の安定化に期待

中国景気の減速懸念をきっかけに新興国通貨安が広がる中、トルコや南アフリカ、インドなど、通貨安やインフレに歯止めをかけるため大幅な利上げを実施する国もみられはじめています。しかし、**ブラジルは既に2013年前半より先行的に利上げを実施しており(合計利上げ幅3.25%)、既にインフレ抑制にも一定の成果を上げています(図2)。**

為替介入政策の面では、ブラジル中銀は2013年末時点で3,758億米ドル(約37.6兆円)という豊富な外貨準備高を抱え、追加的な為替介入政策の余力を大きく残しています。**2013年8月以降、ブラジル中銀は積極的な介入政策によって為替市場に対する影響力を保持する傾向が続いており、1月31日の米ドル売り追加介入の実施をきっかけにレアル相場が安定化に向かうことが期待されます。**

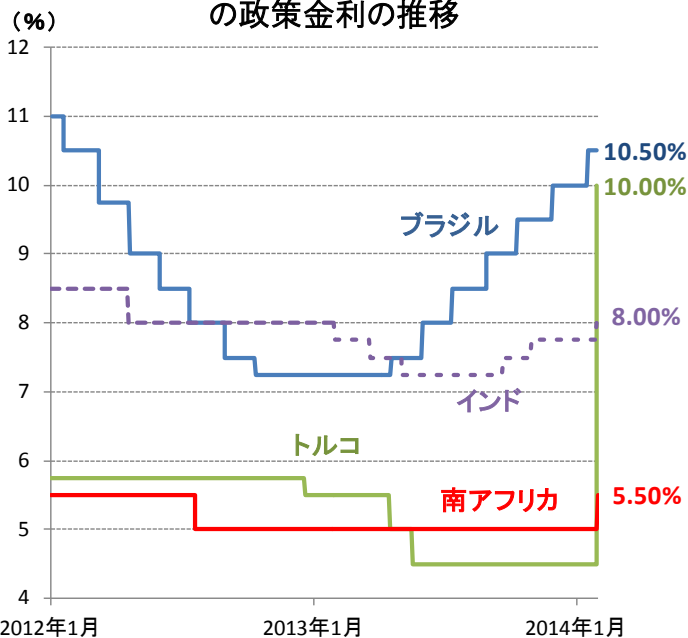
(*)レター中の中為替換算レートは全て1米ドル＝100円。

図1:ブラジル・レアルの対米ドル、対円相場



(出所)ブルームバーグ (期間)2013年1月1日～2014年1月29日

図2:ブラジル、インド、トルコ、南アフリカの政策金利の推移



(出所)CEIC (期間)2012年1月1日～2014年1月30日

●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。